

ひとり1改革運動

「事例の共有化」改革賞

1. みえる、見える！私たちの目標と成果

各課ごとに作成する『事務所目標』

志太榛原農林事務所総務課

各課ごとに、担当業務とその年間目標、進捗状況を記載した『事務所目標』を作成して業務を「見える化」し、情報を共有することで的確な進捗管理や問題点の早期発見等が行えるようにしました。

また、モチベーションを維持しながら目標達成のための取組が行われるよう、所内連絡会議において、各課順番に取組状況の報告を行っています。

静岡産業大学 大坪学長から一言

基本的な改善の取組法を事務所全体で展開し、情報の共有化によって、全員で問題解決に向けて努力している点が評価できます。チームワークも向上し、上司のリーダーシップも上手く発揮できるようになることを期待しています。

2. 協働による効果的な広報 ～ 防犯・振り込め詐欺撃退～



左から「振り込め詐欺撃退事例集・チラシ、防犯活動事例集」

県民部くらし交通安全室

自主防犯活動の活性化を図るため、防犯活動の事例集を作成し他の地域に紹介したほか、県警と協働して振り込め詐欺撃退事例集を作成し、県医師会の協力により高齢者の目に届きやすい病院に配布するなど、協働と工夫により効果的な広報を行っています。

静岡産業大学 大坪学長から一言

最も注目され、利活用が期待できる場所に情報を提供する広報の手法を評価したいです。この取組では、単に広報するという従来の姿勢から大きく転換していますが、行政の広報には、このような「絞り込み」が有効なことが多いと思います。

3. 入院時における患者待ち時間の短縮



看護室に掲示した「ポスター」

県立総合病院

1日当たりの入院患者数が多く、入院時の待ち時間が平均で約24分となるなど、患者さんに不安や不快感を与えてしまうことがありました。

そこで、職員への意識改革や、入院患者さんが予定より早く来られた場合の連絡方法を手順化するなどの改善に取り組んだ結果、患者さんの待ち時間を平均約6分に短縮することができました。

静岡産業大学
大坪学長から一言

24分を6分に短縮した成果に、まずは「すごい」の一言です。入院患者さんを待たせないという意識と、仕事の段取り改革がこのような成果に結びついた点を皆で学び、共有化すべきだと思います。

4. タイトル改善やニーズに合った資料掲載で、注目度アップ！



「人づくり実践事例集」(左)と「人づくりハンドブック」(右)

県民部大学室

人づくりに関する2種類の啓発資料について、タイトルからは内容がわかりにくいなどの課題がありました。

そこで、タイトルや文字サイズの変更、ニーズの高い資料の掲載、事例集への特化など改善に取り組んだところ、新聞に取り上げられ、多くの資料送付依頼をいただくなど、注目を集めることができました。

5. 市町村への的確な資料配布



「みんなが進めよう！しずおかユニバーサルデザイン」
(6ヶ国語で作成)

県民部ユニバーサルデザイン企画監

これまで、作成したパンフレットは、業務の参考として一律に市町村へ送付していましたが、今回は写真見本を先に送付し、市町村から必要部数を回答してもらうことで、無駄のない的確な資料配布ができました。

また、必要部数を確認する際にその用途も合わせて確認することで、職員研修や住民への配布等、実際に市町村が取り組もうとしていることを把握することができました。

6. 各種相談員の連携による ワンストップサービスの提供



「相談員による相談対応」

中部県民生活センター 消費者行政スタッフ

これまで、県民からの様々な相談に対し、各種相談員が個別に対応していました。しかし、相談内容が多様化し、複数分野にまたがるケースが増えてきたことから、相談員が連携して対応した相談をまとめた事例集を作成し、情報の共有化を図りました。これにより、相談員のヨコの連携を強化し、ワンストップサービスの提供に努めています。

7. 参集訓練にDIGを取り入れ、 管内の防災情報を共有化



「訓練で作成した防災マップ」

熱海土木事務所維持調査課

防災参集訓練に合わせ、新規転入者を対象に、DIG(災害図上訓練)を取り入れた独自訓練を実施しました。管内の緊急輸送路や病院等の防災拠点、危険箇所等を記載した防災マップを作成し、防災知識の向上と共有化を図ることができました。参加者にも、実務的で有意義な訓練ができたと好評でした。